

だいみょうじ  
大明寺川水系河川整備基本方針

平成27年1月

長 崎 県

だいみょうじ  
大明寺川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 大明寺川流域の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	4
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	4
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	5
3) 河川の維持管理に関する事項	5
2. 河川の整備の基本となるべき事項	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に 係る川幅に関する事項	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために 必要な流量に関する事項	7

<参考図>

大明寺川水系流域概要図

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 大明寺川流域の概要

大明寺川は、長崎県西海市の東部に位置し、その流域は、大部分が西海市西彼町に属しており、最上流部の一部が長崎市北部となっています。その源を鶴山(標高 447m)に発し、北東に流下した後、流れを北に向け、流域の中心部を通る国道 206 号を横切り、旧西海市役所西彼総合支所付近の市街地を流れ、途中中山川、殿井手川を合流して、流れを北西に向け、大村湾に注ぐ流域面積約 20.3km<sup>2</sup>、幹川流路延長約 7.1km の二級河川です。

流域の地質は、そのほとんどが黒色～灰白色の緻密な岩石である松浦玄武岩類で構成されています。

流域の気候は、温暖な西海型気候区に属しており、年平均気温は約 17℃ 程度です。また、年平均降水量は概ね 1,700mm 程度で、梅雨や台風の影響を受けるため、5月から8月の降水量が多くなっています。

流域の地形は、アカマツ・ヤマツツジ群落、シイ・カシ萌芽林を中心とした山地が流域の大半を占めていますが、下流部の本支川沿いには平地がひろがっており、主に水田・宅地として利用されています。また、支川中山川流域には山地斜面を利用した果樹園が点在します。

流域内には、動物園(長崎バイオパーク)が整備されており、県内外から多くの人々が訪れています。また、キリシタン墓碑といった安土桃山時代から江戸時代の大村藩にまつわる史跡・文化財も存在します。

流域内の人口は約 2,000 人となっており、そのほとんどは、下流の国道 206 号沿いおよびその下流域に集中しています。

大明寺川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は以下に示すとおりです。

#### ① 治水の概要

大明寺川は、川幅が狭く流下能力が低いことから過去幾度となく台風や大雨による災害を引き起こしてきました。

主な洪水としては、昭和 42 年 7 月、昭和 57 年 7 月、平成 15 年 7 月がありますが、特に昭和 57 年 7 月の洪水の際には、支川中山川合流部の旧西海市役所西彼総合支所付近の住宅が冠水しました。

大明寺川では昭和 55 年から河川改修に着手しており、現在は河口から上流約 1.8km の区間の改修が進められていますが、支川中山川の洪水による被害を防止するまでには至っていないのが現状です。

## ②利水の概要

大明寺川の河川水は主に堰からの取水により周辺の水田約 50ha の農業用水として利用されていますが、近年これらの水利用に著しい影響を与えるような渇水被害は発生していません。

## ③自然環境および河川利用状況

大明寺川の流域は、その河道状況から、<sup>じきば</sup>喰場橋(河口から約 2.2km 地点)を境に山地を流れる上流部および住宅地や開けた耕地を流れる下流部の 2 区間に区分できます。

源流から喰場橋に至る上流部では、アカマツ・ヤマツツジ群落、シイ・カシ萌芽林を中心とした山地が大部分を占めており、アラカシやコナラなどの広葉樹林が水面を覆うように繁茂し、自然度の高い区間となっています。護岸は石積みまたはコンクリートとなっており、河床は主に砂礫や砂で構成されています。流れが速いことから瀬となっている区間が多く、溪流の様相を呈しています。水辺ではミサゴ(準絶滅危惧:環境省レッドリスト(以下「環」という)、準絶滅危惧:長崎県レッドリスト(以下「長」という))、カワセミ、ヒヨドリなどの鳥類が見られ、水際と接する箇所では、メダカ南日本集団(絶滅危惧Ⅱ類:環, 準絶滅危惧:長)、カワムツ、ドンコ、ヨシノボリ類などの魚類が生息しています。

喰場橋より河口に至る下流部では、一部の山付き区間でクスノキやアラカシなどに代表される広葉樹林が存在していますが、その大部分はヨシ群落、ススキ群落を中心とした平地が大部分を占めています。河床は砂で構成されており、川の勾配は上流部に比べ緩やかになり、両岸には水田が大きく広がっています。護岸は石積みまたはコンクリートで施工されています。流れの緩やかな水面には、ホシハジロ、イソシギ、カルガモ、マガモなど多くの鳥類を見ることができ、ボラやハゼなどの汽水域の魚類が生息しています。

大明寺川における河川利用としては、喰場橋より上流部では法勾配が急な石積みやコンクリート護岸となっているため、川へ近づけるような水辺が少なく、川辺の散策や生活道路としての利用がほとんどです。喰場橋より下流部では河口付近に西海市西彼多目的公園があり、市民のスポーツおよびレクリエーションの場として広く利用されています。

水質に関しては、公共用水域の類型指定を受けていないため定期的な観測は行われていませんが、平成2年から平成11年にかけて行った観測では、喰場橋（河口から約2.2km上流）におけるBOD75%値の平均は約1.1mg/リットルで、環境基準A類型相当（2.0mg/リットル以下）を保ち、概ね良好な水質であるといえます。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

大明寺川の整備にあたっては安全・安心で快適な地域づくりをめざし、関連地域の社会・経済の発展に係わる諸計画（西海市総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図ります。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

### 1) 洪水、高潮等による災害発生の防止又は軽減に関する事項

大明寺川においては、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量の安全な流下を図ります。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や、計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるため、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施し、防災・減災に努めるとともに、ハザードマップ作成に向けた支援を行います。さらに、災害に強い地域づくりのために、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

## 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や西海市等関連する他行政機関との緊密な連携のもとに、適正な水利用が図られるよう努めます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、ミサゴ（準絶滅危惧：環，長）やヒヨドリなどの鳥類の休息場となっている良好な河畔林の保全に努めます。また、重要種であるメダカ南日本集団（絶滅危惧Ⅱ類：環，準絶滅危惧：長）やヨシノボリ類などの魚類が生息する瀬や淵の維持及びミゾソバ群落・アキカサスゲ群落などの河道内植生の保全や汽水域の良好な河川環境の保全に努めます。さらに地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間の整備を図ります。

## 3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切に行います。

堤防、護岸等の河川管理施設については、河川の巡視及び点検を行い、亀裂・陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

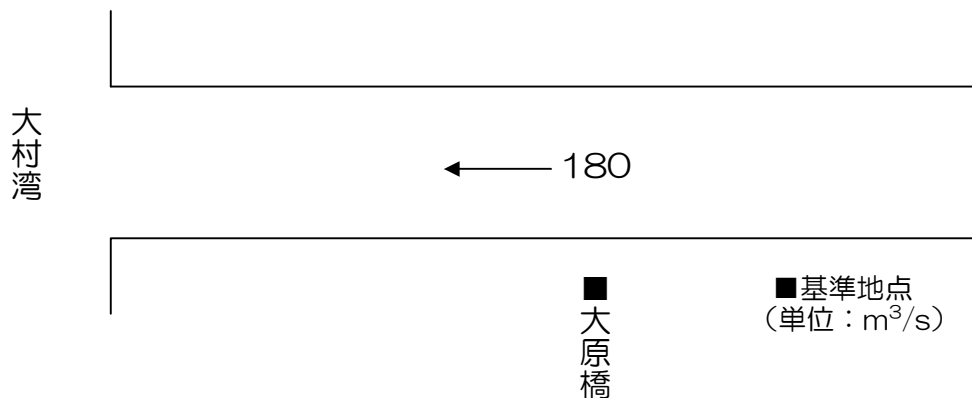
基本高水は、年超過確率 1/30 の規模の洪水とし、そのピーク流量は、基準地点大原橋において  $180\text{m}^3/\text{s}$  と設定し、これを河道に配分します。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
大明寺川	大原橋	180	—	180

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

大明寺川における計画高水流量は、基準地点大原橋において  $180\text{m}^3/\text{s}$  とします。



大明寺川計画高水流量配分図



(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

大明寺川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は次に示すとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅一覧表

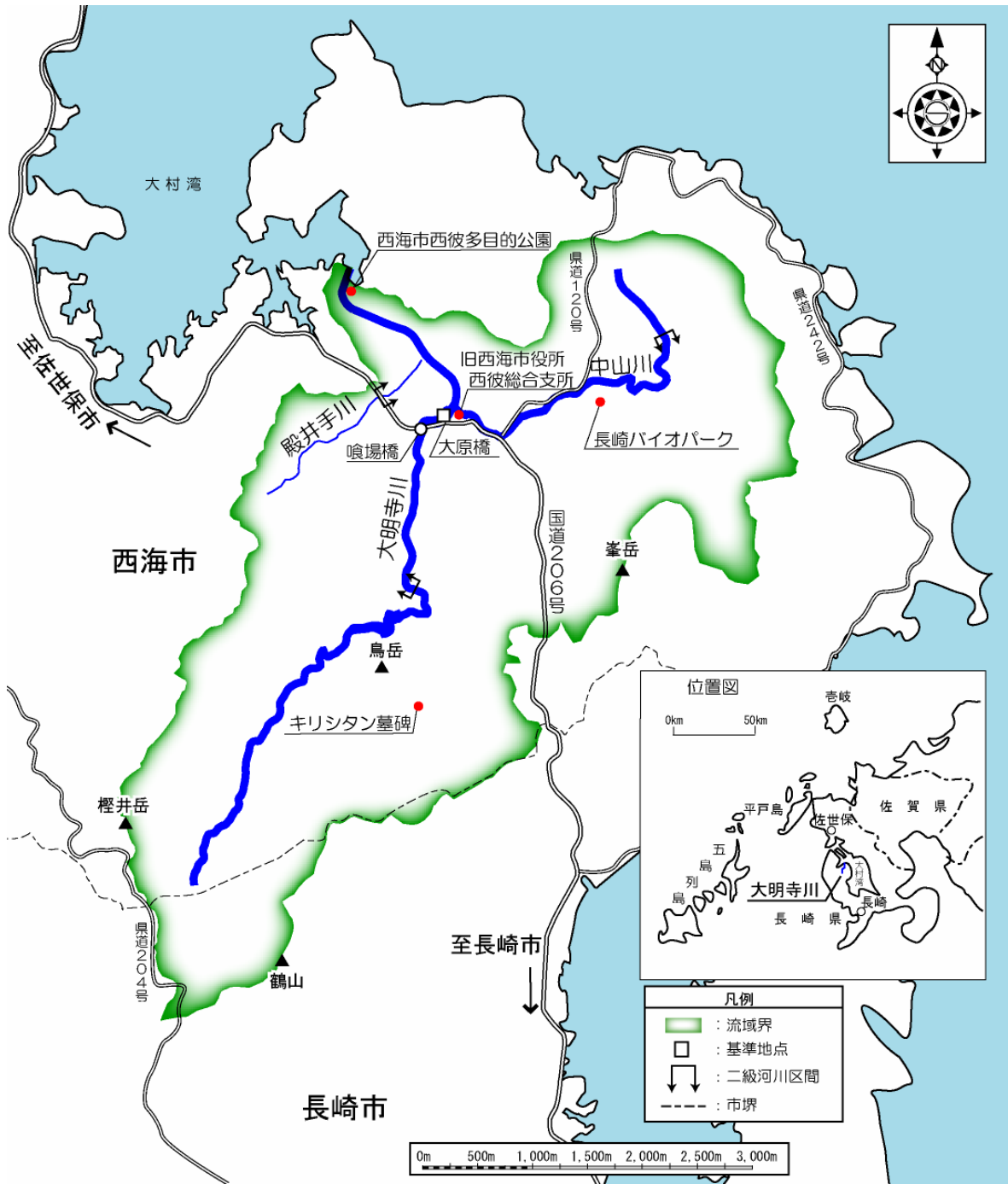
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
大明寺川	大原橋	1.86	+1.81	40	基準地点

(注) T.P.: 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

大明寺川の河川水は主に流域内の水田約50haで農業用水として利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮のうえ、今後必要に応じて調査・検討を行います。



参考図 大明寺川水系流域概要図